



2020 RACE REPORT

ピレスーパー耐久シリーズ2020 第3戦

スーパー耐久レース in 岡山

#52 埼玉トヨペット GB クラウン RS

2020年10月31日(土) ~ 11月1日(日)

岡山国際サーキット(岡山県美作市)

ライバルと接戦の末、悔しい2位表彰台

第3戦のレース時間は3時間。予選日(土曜日)の天候は晴。Aドライバー、服部選手は予選開始の合図とともにコースに入るも、ウォーミングアップ中に電気系のトラブルが発生し、ピットに戻ることに。応急処置を施し、残り約7分でピットアウト。タイヤが温まりにくい状況の中、服部選手は最後のアタックで1分40秒481(3位)をマークし、#244 フェアレディZのタイムを上回った。Bドライバー、吉田選手は最後のアタックで1分39秒903(3位)をマーク。A、B両ドライバーの合算タイムは3分20秒384となり、予選3位につけた。Cドライバー、川合選手は決勝を想定したシミュレーション走行を行い1分41秒761(2位)。吉田選手の走行中も電気系のトラブルは発生しており、スタッフ総出でトラブルの原因を探す。ハーネスやバッテリーのチェック、さらにはオルタネーターの交換など、考えられるすべての対策を行った。

決勝日(日曜日)の天候は晴れ。感染対策を実施した上で、今年初のピットウォークが行われ、ファンの熱気がパドックを包む。スタートドライバーは吉田選手。吉田選手はスタート直後の混戦の中、#15 フェアレディZを抜き、2位で1周目を終了する。先頭はランキング1位の#39RC350。吉田選手は力強い走りで行くが、6周目にST-Xクラスのマシンがクラッシュ。セーフティカー(SC)が導入される。7周目に#15 フェアレディZ、9周目に#244 フェアレディZが相次いでピットイン。コースに復帰するも、実質的な周回遅れとなる。近藤チーフエンジニアは、スポッターの平沼とともに同一周回で戻れるピットインのタイミングを見極め、10周目の終わりに吉田選手をピットに戻す。川合選手に交代し、給油とタイヤ交換を行いピットアウト。川合選手は狙い通り同一周回の2位でコースに復帰し、隊列の最後尾につく。

13周目の終わりにSCがピットロードに入り、14周目からレース再開。#39RC350との差は10秒ほどで、川合選手はブッシュするが、ペースは伸び悩み、ギャップを削ることができない。それでも#39RC350のペースが徐々に低下していき、47周目には3.406秒差まで接近する。レースの約半分を経過した50周目の終わりに、#39RC350が1回目のピットイン。これにより川合選手はトップに浮上する。#39RC350は1分06秒差の2位。川合選手は「タイヤの摩耗が進んでいる」と無線で伝えており、チームは次のピットインでタイヤ交換を行うべきかどうかを協議。その結果、タイヤ無交換でチェッカーを目指すという結論に至り、58週の終わりに川合選手がピットイン。服部選手に交代し、給油のみでピットアウトする。服部選手の順位は#39RC350と約5秒差の2位。しかし、タイヤの摩耗が進行するにつれ、#39RC350との差は開いていき、残り30分となった80周目に31秒差となる。2台の差はさらに広がり、93周目の終わりに#39RC350が2回目のピットイン。ドライバー交代のみでピットアウトし、トップのままコースに復帰する。服部選手は約15秒差の2位。ピットではスタッフが祈るようにモニターを見つめているが、タイヤの状態は厳しさを増しており、勝負はここまで。2位表彰台を獲得したものの、悔しさの残るレースとなった。

この結果により、ポイントランキングは2位のままで、#39RC350とのポイント差は6ポイントに拡大。シーズン後半の3戦はすべて獲得ポイントの大きい5時間レース。Green Braveにとって負けられない戦いが続く。

決勝結果(ST-3クラス)

#52 埼玉トヨペット Green Brave クラウン RS
(服部尚貴/吉田広樹/川合孝汰)

決勝: 2位(100周、3時間00分56秒342)

予選: 3位



DRIVERS VOICE

【服部尚貴選手】

ペースは全然良くなく、タイヤを換えるべきでした。私の判断ミスですね。電気のトラブルは出なかったですが、1週のラップタイムはあそこまでは落ちないつもりでしたので、ちょっと残念です。今日の場合はタイヤ4本交換ですね。次のもてぎはストップ&ゴーのコースでなかなか難しいですが、長いレースはうちが得意としているところなので、びしっと決めたいと思います。

【吉田広樹選手】

フリー走行でのロングのペースを考えると、タイヤにここまで負担はかからないかと思っていました。その中で自分たちが思っていた通りの作戦はとれたので問題なかったのですが、フリー走行よりもタイヤに対する負担が大きくなり、自分たちのペースを保てなかったのが敗因だと思います。服部さんが乗ってあのペースなので、ぼくが乗っても孝汰が乗っても変わらないですし、フリー走行のロングではもっと速いペースで走っていたので、なぜ今日はもたなかったのかを考えなければいけないと思います。

【川合孝汰選手】

ぼくらがピット作戦でほぼ1周差つけていたのに、39号車はそれをひっくり返すくらい速かった。完敗ですね。タイヤ新品、燃料を入れてロングを走ったのですが、予想外にペースを上げられなくて。クルマのバランス自体も昨日より悪い方向になり、タイムを上げられなかったのが最後までつながってしまったと思います。トップ争いができると思います。ラップタイムの平均が他のクルマと比べて遅いので、今後詰めていくしかないのかなと思っています。

MECHANIC VOICE

【本庄支店・萩原紀彦】

給油を担当したのですが、以前参加した86/BRZレースとはやるのが全然違って、緊張しっぱなしでした。一番大変だったのが給油機を指す時、結構力が必要なこと。坂戸で練習した時は肩が痛くなったほどです。給油に限らず、タイトな時間の中で動く必要があり、時間の感覚が支店とはだいぶ違うので、支店に戻ってもなるべく早くいろいろできればいいかなと思います。

ST-3 クラス決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1位	エアーパースター WINMAX RC350 TWS(レクサス RC350)	101周
2位	埼玉トヨペット GB クラウン RS(トヨタ クラウン)	100周
3位	QUEEN EYES 34Z(ニッサン フェアレディZ)	100周
4位	岡部自動車 RECARO フェアレディZ(ニッサン フェアレディZ)	91周

出走4台

ST-3 クラスポイントランキング

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	39	TRACY SPORTS	76
2位	52	埼玉トヨペット Green Brave	70
3位	15	OKABEJIDOSHA motorsport	54
4位	244	Max Racing	35
5位	62	HELM MOTOR SPORTS	12

※発表前のため、手動計算

PARTNERS



赤城車体工業株式会社



アルパインマーケティング株式会社



EMG ルブリカンツ合同会社



株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



株式会社 FM NACK5



大宮クリーン社・大進カーエアコン



株式会社岡崎巧芸



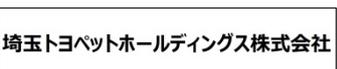
株式会社カーグラス・J P



株式会社クールホールディングス



崎群スリーボンド株式会社



埼玉トヨペットホールディングス株式会社



株式会社三和広告社



JU 埼玉オートオークション株式会社



株式会社テレビ埼玉



株式会社デンソーソリューション

株式会社トイファクトリー
インターナショナル

株式会社ドーム

株式会社トヨタカスタマイジング
& ディベロップメント

トヨタモビリティパーツ株式会社



株式会社トヨタホーム東京



株式会社トヨタレンタリース新埼玉



株式会社ハッピーライフ彩生



富士ゼロックス埼玉株式会社



株式会社プロモーション



株式会社プロモーション



丸和工業

次戦【第4戦】11月21日~11月22日 ツインリンクもてぎ(栃木県茂木町)